

<<令和3年度長期研修生 研究主題一覧>>

県総合教育センター研修企画部
(所属校は令和3年度)

番号	研修内容	氏名	所属校	研究主題	掲載号
1	国語	中山 剛	習志野市立第二中学校	非連続型テキストをクリティカルに活用する書くことの学習指導 —国語科と他教科の関連による単元開発—	萩
2	国語	小山 辰也	船橋市立芝山西小学校	小学校国語科における情報活用能力の育成 —「SDGsの17の目標」のバスマインダーづくりを通して—	萩
3	国語	室 恵美子	船橋市立市場小学校	効果的に読む力を身に付け、読書コミュニティを担う児童の育成 —多様な読書活動を通して、本や学校図書館への愛着を育む—	梅
4	国語	曾沢 紀子	松戸市立高木第二小学校	主体的に読んで自分の考えをもち協働的に探究する読書単元の開発 —リテラチャー・サークルの実践を通して—	桜
5	国語	松崎 倭子	野田市立みずき小学校	低学年における確かに読む力を育成する読書単元の開発 —昔話紹介ブックを作る学習を通して—	菊
6	国語	嶋野 真里	成田市立加良部小学校	どの教師でも展開しやすく、児童の理解・深化の過程を明らかにした授業モデルの開発 —低学年における硬筆書写の能力向上へつなげるために—	菊
7	国語	渡邊 紘志	茂原市立豊田小学校	主体的な読者を育み、多角的に読む力を高める指導の研究 —記念館活動を通して多様な読書活動やICTの活用による協働的な学習の実現—	菜
8	社会	合田 明生	八街市立八街北小学校	公共性のある意見を見いだし、政治的有効性感覚を高める社会科学学習の在り方 —八街市ふれあいバスを中心とした政治学習を通して—	菜
9	社会	杉持 浩之	大網白里市立大網小学校	地域社会の一員としての自覚を高める小学校歴史学習の在り方 —デジタル博物館の活用を通して—	桜
10	社会	川名 洋右	鴨川市立安房東中学校	持続可能な社会を形成する力を育てる研究 —近世の経済に焦点を当てた身近な地域の歴史学習を通して—	萩
11	社会	中野 浩太郎	富津市立吉野小学校	社会的事象から児童の歴史的思考力を育む社会科学学習の在り方 —道標から町の変遷を捉える学習を通して—	梅
12	算数	ハッ橋 祐太	松戸市立南部小学校	主体的に学習に取り組む態度を育てるための指導の在り方 —統計的な問題解決活動の素地づくりを通して—	桜
13	算数	円城寺 さやか	香取市立東大戸小学校	自ら問いを見いだし解決していく「関数の考え」の育成 —問題提示と発問、まとめ方の工夫を通して—	菊
14	数学	金澤 知広	香取市立山田中学校	見通しをもって証明問題に取り組む生徒の育成 —ふきだしと振り返りフローチャートの活用を通して—	梅
15	数学	能城 貴臣	木更津市立太田中学校	統計的リテラシーにおける代表値を活用する力を育成するための授業の一考察 —既習内容と比較して振り返る場面の設定を通して—	菜
16	理科	武藤 諒	八千代市立村上中学校	イオンの学習における深い学びを生み出す授業づくり —「化学変化と電池」の学習を通して—	菊
17	理科	安達 玲子	松戸市立新松戸南小学校	生物どうしのつながりの学びを深める理科の授業づくり —学社連携とICTを活用して—	梅
18	音楽	重黒木 静	船橋市立宮本中学校	資質・能力を育む創作の授業デザインの追求 —音楽的な見方・考え方を働かせ、実感を伴った理解過程に着目して—	菜
19	体育	武藤 光亮	松戸市立上本郷小学校	思い切り体を動かしながら、運動の楽しさを味わえる体育学習 —しなやかな誇張(Exaggeration)したサッカー教材と教師の働きかけの工夫を通して—	萩
20	体育	佐藤 浩光	九十九里町立豊海小学校	マット運動におけるICTを活用した課題発見する力の向上に向けて —自作デジタル教材を通じた個別最適な学習を目指して—	桜
21	体育	佐藤 章雄	茂原市立五郷小学校	陸上運動における技能向上につながる対話型学習の在り方 —子供とつくるコミュニケーションデザインマップの活用を通して—	菊
22	体育	高梨 崇洋	いすみ市立夷隅小学校	児童の運動有能感を高めるマット運動の学習指導の検討 —協同学習モデル「PACER」を適用した授業実践を通して—	菜
23	体育	宮坂 琢弥	市原市立ちはら台桜小学校	運動の特性を生かしながら調整力と主体的に学習に取り組む態度を高める体育指導 —コーディネーショントレーニングの考え方を応用した体づくり運動を通して—	梅
24	家庭	柏木 麻理子	印西市立内野小学校	持続可能な社会の構築に向けて思考・判断する力を育む消費の学習 —金銭や物の価値を実感させることを通して—	梅
25	小学校 外国語	大多和 絵美	茂原市立東郷小学校	自分で考え、伝え合う英語力を育てるSmall Talkの指導 —相手意識をもって、主体的にコミュニケーションを図ることができる児童の育成—	菜
26	道徳	前田 彩	八千代市立みどりが丘小学校	自己の生き方についての考えを深める道徳学習プログラム —ナラティブなキャリア・パスポートの活用を通して—	菊
27	道徳	伊藤 穂高	八千代市立村上北小学校	自己有用感を高める道徳教育プログラム —道徳ノートを活用した関わり合いを通して—	桜
28	道徳	山口 明洋	浦安市立日の出小学校	児童による道徳的価値について深く考えるための協働的な議論を生み出す道徳科授業 —GLFT(対話学習ファシリテーションツール)の活用を通して—	萩
29	道徳	吉田 真奈美	香取市立佐原小学校	振り返りの充実により道徳的価値を自己との関わりで考え深める道徳科学習 —総合単元的道徳学習におけるOPPシートの活用を通して—	梅
30	道徳	山崎 智子	旭市立干潟小学校	多面的・多角的に考え、よりよい自己決定へつなぐ道徳科授業 —問題解決的な学習にプログラミング的思考の要素を取り入れて—	菊
31	道徳	明石 真実	袖ヶ浦市立昭和小学校	自分なりの幸せを形づくるための総合単元的な道徳学習プログラムの開発	萩

32	総合的な学習の時間	酒井 正恵	浦安市立明海南小学校	社会参画の意識を高めるプロジェクト型学習 —評価(assessment)の工夫を通して—	萩
33	総合的な学習の時間	平松 正裕	松戸市立北部小学校	持続可能な社会の創り手に求められる資質・能力の育成 —関連的な指導によるESDの構成概念の形成過程を通して—	菜
34	学校・学年・学級経営	畠島(林田) 万輝子	松戸市立中部小学校	教員の認知次元に着目した児童理解と学級経営の在り方 —子供たちの自己肯定感の育みを目指して—	梅
35	学校人権教育	佐藤 雅浩	山武市立松尾小学校	人権を尊重した児童生徒への接し方に関する一考察 —教員の認知バイアスに着目して—	菜
36	現代的教育課題	平山 靖	習志野市立向山小学校	学級担任が1人1台端末を協働学習に生かせるようになるまでの実践的研究 —Microsoft 365を使用して—	萩
37	現代的教育課題	角 翔太郎	銚子市立双葉小学校	小学校算数科「速さ」の理解を深めるプログラミング教育 —Scratchの活用を通して—	菊
38	現代的教育課題	和山 孝行	大多喜町立大多喜小学校	情報活用能力を育成するための単元開発 —学校の壁を越えて、地域の課題解決に取り組む協働学習を通して—	梅
39	現代的教育課題	岡田 庸一	鋸南町立鋸南小学校	学校・家庭・地域をつなぎ、児童の集団的問題解決能力を育む社会教育の在り方 —児童・保護者・地域、異集団での協働関係を築く学び合いを通して—	菜
40	発達障害	大桃 友加里	いすみ市立東海小学校	児童の自己理解の深まりと自己肯定感の高まりを目指した自立活動の授業実践 —各関係機関と連携した児童の実態把握と「じこしょうかいブック」作りを通して—	蓮
41	発達障害	加藤 由佳里	君津市立周西小学校	自閉症・情緒障害特別支援学級に在籍するADHD傾向のある児童の自己肯定感を高める支援の工夫 —応用行動分析シートを活用したケース会議と自立活動の指導を通して—	梅
42	発達障害	鏡 良幸	市原市立辰巳台西小学校	通常の学級に在籍する支援を要する児童への「気付き」と早期支援について —支援内容検討ガイドの作成と評価—	菊
43	視覚障害	平山 恭子	県立千葉盲学校	視覚障害児の歩行指導に関する考察 —幼児が主体的に歩くために—	菜
44	知的障害	高司 智貴	県立香取特別支援学校	特別支援学校生徒(知的障害)に対する不安の予防教育の有効性に関する研究 —朝の会での認知行動療法プログラムやホームワークを通して—	萩
45	知的障害	實方 政美	県立長生特別支援学校	学習意欲を高め、表現する力を引き出すことができる音楽の授業づくりを目指して —知的障害のある児童一人一人の実態に応じた目標と内容の明確化—	桜
46	インクルーシブ教育	山崎 慶太郎	県立特別支援学校流山高等学園	特別支援学校高等部専門学科における 不登校・不登校傾向の生徒に対する個別最適な学びの検討	梅
47	特別支援教育課題	高山 和也	県立市原特別支援学校	知的障害特別支援学校のICT機器を活用した授業改善 —タブレット型端末を用いた高等部作業学習の取組を通して—	桜
48	特別支援教育課題	押塚 雄史	県立東金特別支援学校	知的障害教育におけるICT活用 —見立てを重視した支援ガイド作成を通して—	菊
49	特別支援教育課題	青柳 耕平	県立富里特別支援学校	知的障害特別支援学校に在籍する児童生徒を対象にした学習に関するカリキュラム・マネジメントの研究 —カリキュラム・マネジメントにおける学習評価に着目したフレームワークとガイドラインの作成—	萩
50	特別支援教育課題	大貫 達也	県立飯高特別支援学校	特別支援学校におけるコミュニティ・スクールの在り方 —持続可能な地域とのつながりを目指して—	菜
51	教育臨床	根本 安尉	市川市立南行徳小学校	教育相談基礎カリストの作成と実践 —教育相談における共通の視点を明らかにするために—	桜
52	教育臨床	平山 やよい	市川市立行徳小学校	教育相談基礎カリストの作成と実践 —教育相談における共通の視点を明らかにするために—	桜
53	教育臨床	笠井 明子	我孫子市立我孫子第四小学校	教育相談基礎カリストの作成と実践 —教育相談における共通の視点を明らかにするために—	桜
54	教育臨床	嶋田 淑子	成田市立神宮寺小学校	教育相談基礎カリストの作成と実践 —教育相談における共通の視点を明らかにするために—	桜
55	企業等派遣	村上 仁崇	県立千葉南高等学校	企業の顧客分析手法を生かした学校評価のあり方	萩
56	企業等派遣	尾形 勝浩	県立特別支援学校市川大野高等学園	企業がもつ経営手法と求めるコミュニケーション力を学ぶ —保護者対応と進路指導に生かすために—	桜
57	企業等派遣	工藤 飛鳥	県立楨の実特別支援学校	企業研修を通して変化への対応力や組織力を高める方策を学ぶ —特別支援学校のキャリア教育の充実を目指して—	菊
58	企業等派遣	吉田 鈴美	県立松戸特別支援学校	チーム内の連携強化のため、企業の取組を学ぶ —地域のニーズをもとに校内で情報共有するための有効な方法とは—	梅
59	企業等派遣	鹿野 公敬	香取市立佐原小学校	「チーム学校」と「働き方改革」の推進に向けた一考察 —企業の内製化に学ぶ、業務改善の提案—	菜
60	企業等派遣	佐々木 英充	市川市立稲荷木小学校	企業から学ぶ、学校教育へのヒント	蓮
61	企業等派遣	松浦 雅子	県立野田特別支援学校	企業における業務改善について —情報共有と業務のマニュアル化に視点を当てて—	萩
62	企業等派遣	加藤 美優	県立成田北高等学校	民間企業等のもつ経営手法や企業人の生き方等を学び、今後の学校教育に生かす	菊

・研修区分の教科等、特別支援教育、教育臨床については、教育コンテンツ・データベース「Wakaba」で閲覧することができます。千葉県総合教育センターWebサイトトップページ→学校支援／授業支援→学習指導案等検索で、Wakaba学習指導案等検索のバナーをクリックすると、教育コンテンツ・データベース「Wakaba」につながります。

長期研修の一年

木更津市立木更津第三中学校教諭（前同市立太田中学校教諭）

のうじょう たかおみ
能城 貴臣



私は、令和3年度長期研修生として千葉大学教育学部松尾七重研究室で数学科の研究をしてきた。この一年間の生活を振り返ってみると本当に多くの学びを得ることができたと感じている。

長期研修を希望したきっかけは、「どうしたら生徒に数学の力をつけてあげられるのか」と考えたことが始まりだった。長期研修の当初は、統計的思考力を向上させるための取組を考えていた。しかしながら、4月から始まった大学での研修において、教授から「思考力は幅広いものだ」と御教示いただき、もっと焦点を絞ったものにしようと考えた。そして、いろいろな研究論文や書籍を読み、生徒が実際に困っていること、数学教育で求められていることなどを踏まえて何度も教授とやりとりをし、6月に研究主題の方向性を定めることができた。

そこから更に検証を行っていくための理論研究を重ね、8月ごろから実際に検証授業を行うための指導案の作成に取り掛かった。その際、発問や生徒の反応の予想などを一つひとつ丁寧に考え、授業を組み立て、単元を構成していった。

10月からいよいよ検証授業が始まった。在籍校には月に一度程度足を運んでいたため、スムーズに授業に入ることができた。また、数学科担当の先生とも打合せを行い、協力を仰げたことも大きかった。授業では、ビデオカメラやレコーダーなどを用いて生徒の様子をつぶさに観察した。授業の終わりにはどのような反応をしていたのか文字に起こしたり、ワークシートから生徒の考えを読み取ったり、

ときには、生徒に直接ヒアリングすることもあった。こうして、指導案にそって検証授業を行い、生徒の変容を図るためのデータを集めていった。

検証授業が終わった11月からは、授業での様子や調査問題の結果から、研究仮説が正しかったのかを検証した。いろいろな角度から検証することで、成果だけでなく新たな課題に気付くこともできた。そして、12月からは研究報告書の作成に取り掛かった。長期研修の成果をまとめたものであり、とても重要であるため、教授からも一字一句まで御指導をいただいた。また、千葉県総合教育センター研究指導主事の先生方にも御指導をいただき、1月には報告書を完成させることができた。

その後、千葉大学の発表会や総合教育センターの動画配信に向けての準備が始まり、同時に研究報告冊子の作成を始めた。2月から3月にかけての発表会や動画配信を通して、様々な研修に触れることができ、たくさんの刺激をもらうことができた。

今年もコロナ禍で先が見通せないときや研究の予定が変更になることもあったが、無事に一年を終えることができた。これも、いろいろな人の支えがあったからだと強く感じている。教授や研究指導主事の先生方、同じ研究室で研究を共にした仲間や同期の長期研修生、在籍校の先生方と本当に多くの方に支えていただいた。今後は、生徒のため、地域や県のために、研究の成果を広め、数学教育を推進していけるよう努力を続けていきたいと思っている。

令和3年度 千葉県長期研修生の研究の紹介

県総合教育センター総務課「千葉教育」編集部

今年度は、毎号12名（蓮号のみ2名）の長研生に、各自の研究の動機と研究成果の活用方法を中心に述べてもらうこととした。これから長期研修制度を利用して研究をしたいと思っている読者には、大いに参考になることだろう。

なお、県総合教育センターのWebページには、一つの研究についてその内容を8ページにまとめた研究報告書を掲載しているので、ぜひ御覧いただきたい。

特別支援教育

児童の自己理解の深まりと自己肯定感の高まりを目指した自立活動の授業実践 —各関係機関と連携した児童の実態把握と「じこしょうかいブック」作りを通して—

いすみ市立東海小学校教諭 おおも 大桃 ゆかり 友加里

これまでの自立活動の授業実践において、児童の実態把握の不十分さが要因となり、自己理解を深め、自己肯定感の高まりを目指した授業実践を十分にできていなかったのではないかと考えた。そこで、各関係機関と連携して児童の情報を共有し、特性及び諸検査の分析を取り入れて児童の実態を把握した。実態把握から「じこしょうかいブック」作りの授業実践を行い、各関係機関との連携における情報共有や検討した支援方法を取り入れた自立活動の授業実践の有効性が明らかとなり、自己理解の深まりと自己肯定感の高まりを数値化し評価をはっきりとさせることができた。今後は、各関係機関との連携による実態把握の重要性を周知していき、児童の成長を促し支えるという視点での授業実践に励んでいきたい。

企業等派遣

企業から学ぶ、学校教育へのヒント

市川市立信篤小学校校長（前同市立稲荷木小学校教頭） ささき 佐々木 ひでみつ 英充

「地域提携の強化」と「地域コミュニティと共に成長し地域経済にも貢献すること」を企業理念とする千葉ロッテマリーンズで様々な地域振興活動に取り組む中、学校が抱える多くの課題解決に生かせるヒントを模索した。そして、学校訪問など教育機関との連携や児童生徒を対象とした招待事業の運営補助、興行運営に向けての取組等の活動の中から、①業務改善、②働き方改革、③組織マネジメント、④人材育成、⑤カリキュラムマネジメントの五つの視点に絞り、学校現場に生かせる企業の取組を研修報告にまとめた。企業の取組には学校の課題解決につながるヒントが多く、様々な対応が求められる学校運営の中で今後、研修での経験を「学校づくり、人づくり」に生かしていきたいと強く感じた。